

バスキュラーアクセスの狭窄、閉塞要因調査

医療法人財団はまゆう会 新王子病院

○白石あかね 船津朋子 横田千夏 大谷麻岐 渡辺千代子

瀬川賀世子 宮崎三枝子 惣明靖元 箴島明彦

【目的】 バスキュラーアクセス (VA) の狭窄、閉塞リスク要因を明らかにする

【方法】 当院透析患者 340 名のうち、平成 27 年 10 月から平成 28 年 9 月の間に 3 回以上 PTA を行った 34 名を PTA 群、PTA 歴のない 120 名を非 PTA 群とし、年齢、透析歴、糖尿病、体重増加、閉塞性動脈硬化症、冠動脈疾患、透析中処置を必要とした血圧低下、喫煙歴、認知症、アルブミン値、抗血小板薬・抗凝固薬内服、CRP 値の 12 項目の要因調査を行った

【結果】 透析中処置を必要とした血圧低下の回数と、抗血小板薬・抗凝固薬内服患者の 2 項目が PTA 群で有意に多かった。有意差はないが、PTA 群で糖尿病、冠動脈疾患合併症の率が高い傾向にあった

【考察】 有意差が認められた 2 項目は、糖尿病や心血管病変に関連していると考えられる。今回は 12 項目の 2 群間比較であるが、患者の高齢化や心血管病変の合併により複合した要因が考えられる

【結語】 透析中の処置を要した血圧低下、抗血小板薬・抗凝固薬内服は VA 狭窄、閉塞のリスク因子の一因である